



* M 0 2 1 4 M M 6 0 B C 0 C N A E 2 3 3 7 2 8 9 E E B C 9 7 0 4 4 1 0 4 5 *

14日付 ひろば6版

箱組

校正回数=50

2024年02月13日14時25分28秒

CNAE2337289EEBC970441045

115倍 3× 22行 21

◎サロン

昔から歩くのが好きで、よくふらふらと散歩に出かけます。歩いていると、車で通り過ぎるだけでは気づかない発見があるのが楽しいのです。

東京在住の頃は電車移動が基本だったので、手軽にできる運動として一駅手前で降りて歩く、などよくやっていました。歩くのは基本的に商店街や住宅街ですから、新しい店を発見したり家々のデザインを眺めたりするのが楽しかったです。

ところが、転職して二本松市に移住し、車通勤になったらとたんに歩く機会が減少。これではいけないと昼休みに職場の周り、帰宅後は家の周り、努めて散歩に出かけるようにしました。このときの職場は郊外の工業団地の真ん中。アパートの周囲も田んぼでしたから、都会を歩くのとはまったく違います。初めの頃は途中で出会うものすべてが新鮮でした。

まず驚いたのは春先、畑の土の中

民 報 サロン

だから散歩は

らぬとはげ頭のようなものが出てくるのを見たときです。一緒に歩いていた地元の人から「あれは溶けた白菜だよ」と聞かされ、ますます驚愕（きょうがく）。それまでスーパースーパーのカット白菜しか見たことのなかった私には衝撃の光景でした。

そのほか、生まれて初めて野生のタ

ヌキやカモシカを目撃したのも散歩中のことでした。道端に美しいしま模様（し模様）のクモやハサミを振りかざすザリガニを発見し、田んぼの脇に佇（たたず）んでしばらく見とれたこともありま

す。

その後、JR福島駅の近くに引っ越して、散歩中の出会いのワイルド感

やや減ったものの、初めて荒川土手でシラサギの姿を見たときや、冬の大空に白鳥の隊列を発見したときは興奮しました。私にとって白い大きな鳥というのは動物園で見るものだったからです。最近ではもう散歩中に驚くことも少なくなりましたが、ひとくくりに雑草と呼ばれる道端の植物たちが季節ごと



中川 雅美

に咲かせる可憐な花の姿にはいまだに感慨を覚えます。

最後に、これまで散歩中に出くわした中で最も驚いたものを紹介しましょう。今から30年ほど前、オーストラリアのシドニーに留学していたときのこと。シドニー湾の入り江には気持ちのよい散策路がたくさん整備されていま

す。その日は湾を渡るフェリーに乗って少し遠出し、初めて対岸のコースを歩き始めました。まだインターネットのない時代、紙の地図を頼りに3〜4時間歩いたでしょうか。疲れたのでビーチで一休みしようと、海岸に降りる細い脇道を下り始めると、いきなり全裸の男性と鉢合わせしたのです。お互い驚きましたが、くたぐたの私は引き返す元気がありません。そそくさとその場を通過し、まもなく砂浜に出たらもっとビックリ。そこはいわゆるヌーディストビーチだったのでした。一人だけ服を着てウロウロしている私に全裸のおじさんが近づいてきて、ここがどんな場所なのか、元の散策路に戻る道はどこか、などやさしく教えてくれた記憶があります。

ドライブだったらこんな笑えるハプニングも起きなかったはず。だから散歩はやめられません。

（福島市太田町、ライター・翻訳者）